

## 西上州 マムシ岳・品塩山 (ヤブ山登山) 報告

【日程】2015年11月28日(土)～29日(日)

【メンバー】CL 柘植秀樹、SL 小俣順子、井上里美、澤田路子(記録)

【天候】11/28 晴れ 11/29 晴れ

【マムシ岳行程】11/28(土)

9:15 キリンテ登山口(駐車)－10:30 ノ五三標石－11:12 マムシ岳－12:50 マムシのCOL  
－13:15 県道(ゲンナイ登山口)－13:50 乗車－浜平温泉しおじの湯－川の駅上野(泊)

かなり早朝に千葉を出発して、関越道本庄児玉で降りて上野村へ。中之沢(上流は日向沢)沿いは毛バリ釣り専用の管理釣り場になっているようで、その専用駐車場をさけてやっと駐車できそうなスペースを探して駐車。記録にあったように道路の右側にある送電線巡視路の標柱を目印に日向沢にかかる今にも壊れそうな肩幅程度の小さな木製橋を渡った所がキリンテ登山口となる。あまりにもぼろぼろの橋で躊躇しながらも、各自の判断で2名は恐る恐る橋を渡り、2名は飛び石で沢を渡って、ほっとしたところでまずはキリンテのCOLを目指して、山腹の斜面をトラバース気味に登る。踏み跡も薄く、落ち葉に覆われた急斜面は意外と足をとられて慎重になる。キリンテのCOLはいつの間にか通過したようで、尾根に出て鉄塔のある915mを目指し、赤テープを目安に北西に進む。狭い尾根で両側はきれいているが特に問題はない。鉄塔通過の後は大岩をまわりこんで、急こう配の岩藪稜の登りとなるが、ありがたいことに、結構新しいトラロープが連続してフィックスされているためそのロープをたよりに登る。とはいえ浮石も多く落石にも注意しながらのよじ登りである。かなり太い木でも簡単にぼきっと折れるような枯れ枝であてにならない。わが身の重さを思い知らされる。



葉が落ちた木立の間から青い空と上州の山並がみえ気持ちがいい。静かな晩秋初冬の時期に歩くのがお勧めというのが納得。ノ五三の標石を確認し、この先も急斜面が続き、岩はもろく、ここでもところどころにトラロープがセットされている。少し緩やかになると尾根も広くなり、北斜面にはわずかだが雪も残っている。尾根上にある大岩を回り込んだり、よじ登ったりしているうちにマムシ岳到着。うっすら読める手書きのプレートをかかえて写真撮影し、風もなく温かい日和にメンバーからいただいたミカンが美味しい。展望もよく奥秩父の山々も望めて、リーダーによると遠くに見えるぎざぎざの山は両神山のようだ。



その先はいきなり急な下りになる。わずかな間だが雪が残っていて滑らないよう少し緊張。その後も岩稜帯が続き大きな岩峰を回りこんで通過する際一本右の尾根にはいりこみ、直ぐに修正するがちょっとまちがいがやすい。そのあとは樹林帯の尾根歩きとなり、途中あせびの森をくぐって、いくつかのピークを確認しながらマムシのコルに到着。シオジの森を紹介した立派な看板がある。



そこから下山開始。このあたりからはシオジの森の保護地区ということで、遊歩道のようにくさりの柵のあるしっかりとした落ち葉の絨毯の路がジグザグに作られている。シオジの原生林は国指定天然記念物とのことだが、そのわりにどれがシオジの木なのか曖昧ではっきりしないまま、「あれだこれだ」と言っているうちに、橋を渡ってゲンナイ登山口のある県道にでてクルマまで戻り、本日の行動終了。

時間があるので予定通り御巢鷹の尾根をピストンしようということになったが、残念ながら行ってみると冬季閉鎖期間で道路が閉鎖されていた。そんなわけで早々としおじの湯に向かい、いつになくたっぷりお湯につかり、泊る予定でチェックしていた川の駅上野に行くには日暮れまでまだ間があるし……ということで、テントで食事を作ることはパスし、ここでコラーゲンたっぷりの名物猪豚カレーなどを食べ、日没を待って本日の宿泊場所川の駅へ。完全に施設がクローズし、明かりが落とされるのを待ってテントを張る。空はほぼ満月が輝き、星もいっぱい。予報以上に明日の天気はよさそうと思いながら、湯ざめする前に早々と6時にはシュラフにもぐりこむ。

## 【品塩山行程】11/29（日）

7:35 しおじの湯（駐車）－8:10 品塩山登山口－ 8:55 鉄塔（970m）－10:35 品塩山南峰（1282m）  
－10:40 鉄塔（1278m）－12:55 トヤノツムジ（976m）－13:40 しおじの湯

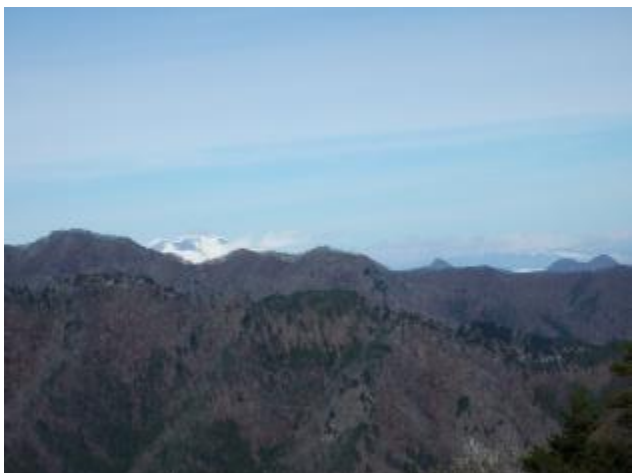
6:00起床、テントの外では早朝から何やら「おはようございます」の音が賑やかにいきかう様子なので顔を出してみると、大型バスが駐車して家族に送られてきた小学生が次々とそのバスに乗り込んでいるところ。そのバスの窓から子ども達が興味深そうに、われわれのテントをながめている。そんな外の様子にドキドキしながらテントの中でしっかりお湯を沸かして朝食をすませ、まずは本日車を置く「しおじの湯」に向かう。駐車場に車をとめ身支度をして登山口まで車道を30分ほど歩く。きゅっと身が引きしまる初冬の朝の寒さも爽快で悪くない。だんだん体が温まってきていいウォーミングアップでもある。

昨日も確認したスタート地点の中ノ沢の状況はというと、いい場所を探せば渡渉はさけられそうということで、女性群はうろうろした結果適当な箇所を見つけ、飛び石で向こう岸に。リーダーはいさぎよく靴をぬいで渡渉。赤テープを目安に登っていくと、途中から石積みのりっぱな古道となり、記録通り屋根だけの廃屋や丸太の階段もあらわれた後、ほどなく970m地点に鉄塔が出現して尾根にのる。

青空が目飛び込み、昨日登ったマムシ岳もみえる。見晴らしのいい所にでると、このエリアは鉄塔と電線が結構密で、その巡視路と思われる道もあちこちにある。位置確認の目安になる一方ちょっと人工物として目立ちすぎる感があるのは残念。



30分ほどで分岐、1121m地点に着く。その後大岩を超えて、帰路にとる尾根を左に見て進んだ後急な藪岩尾根のよじ登りとなる。帰りはここを下ること考えるとかなりの急下降である。いつの間にか北峰を通過したらしく確認できないまま、手書きのプレートのある品塩山南峰（1282m）に到着。



その先はこんな尾根伝いにはめずらしく檜の巨木が何本もあって見事である。見晴らしがいいと紹介されていた鉄塔（1278m）の所まで足をのぼしていってみるとたしかに西上州の山々から真っ白に雪をかぶった浅間山までもよく見える。黒一点のリーダーには申し訳ないが、今回は女性陣の世代が近いせいか、晴天、無風の小春日和も手伝って休むたびにおしゃべりに花が咲く。



小休止の後下りスタート。ちょっと不安だった急斜面の箇所は念のためリーダーが補助ロープを出してくれて、何回か掛け替えてはごぼうで下りる。感謝である。

下りきった所で、これから登るといふ男性二人パーティーに出会う。この2日間で人に会ったのは初めてだ。ゆるい尾根を少しずつ下っていくと976mのトヤノツムジに到着。ふかふかの深い落葉の尾根筋を下り気味に鉄塔、小屋跡と順調に通過し、中ノ沢まで下りきる手前でトラバース気味に右へ進むと、車が見えてきて思った以上に早く浜平温泉しおじの湯に到着。小ぶりで可憐な花をたくさんつけた冬桜の木が出迎えてくれて本日の山行は終了。

このエリアの岩藪歩きは初体験に近かったが、この季節の西上州の良さをしみじみ味わうことができるなかなかおもしろいコースだった。もちろん晴天、無風だからこそ。渋滞にはまらないよう、トイレ休憩くらいでさくっと帰葉する。

